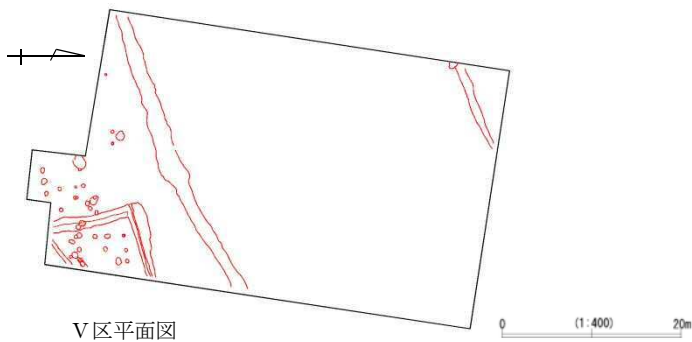


恒武西宮遺跡  
(第21次調査)  
現地説明会資料

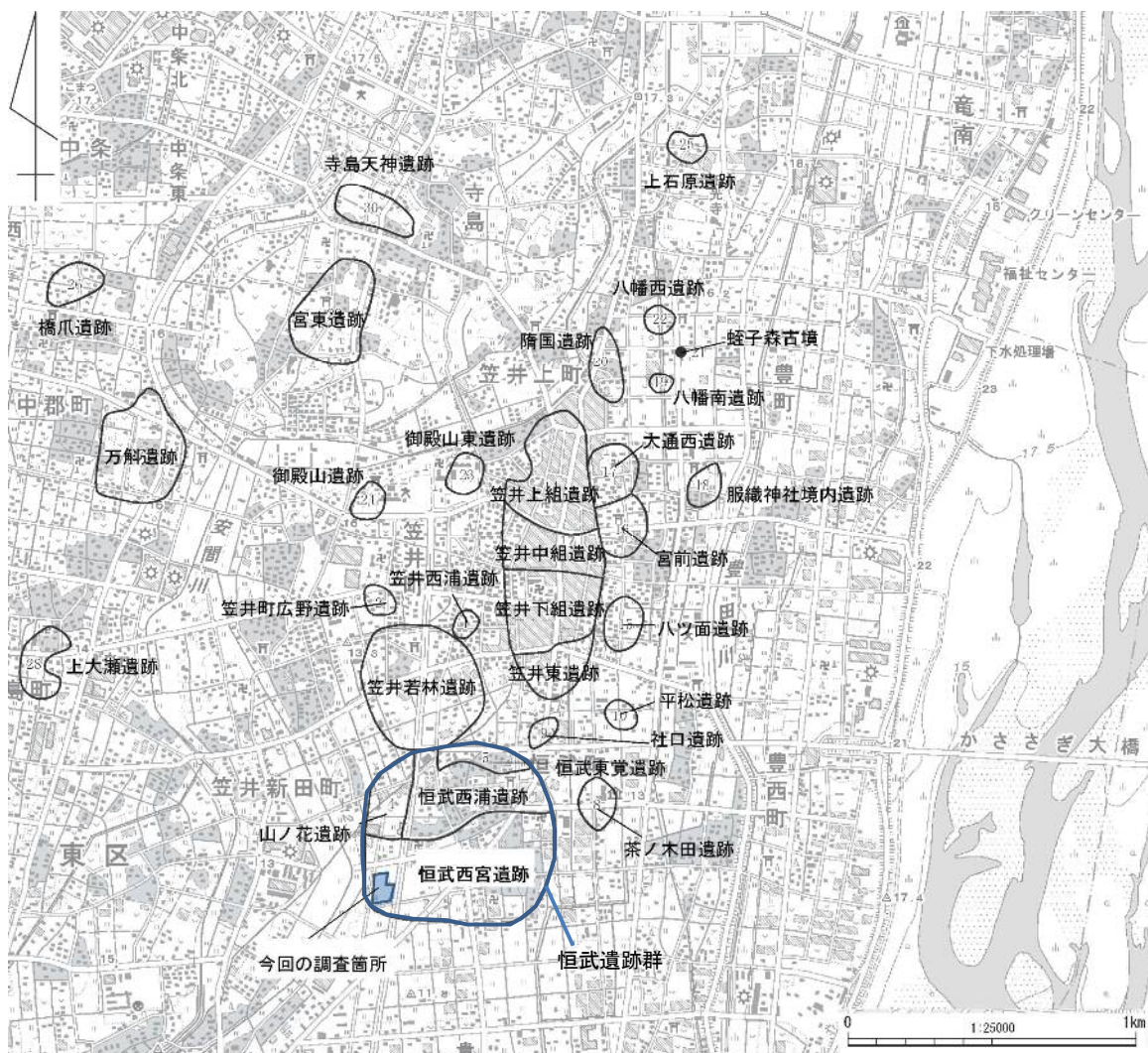


2018年2月25日(日)  
浜松市文化財課  
(浜松市地域遺産センター)  
TEL 053-542-3660

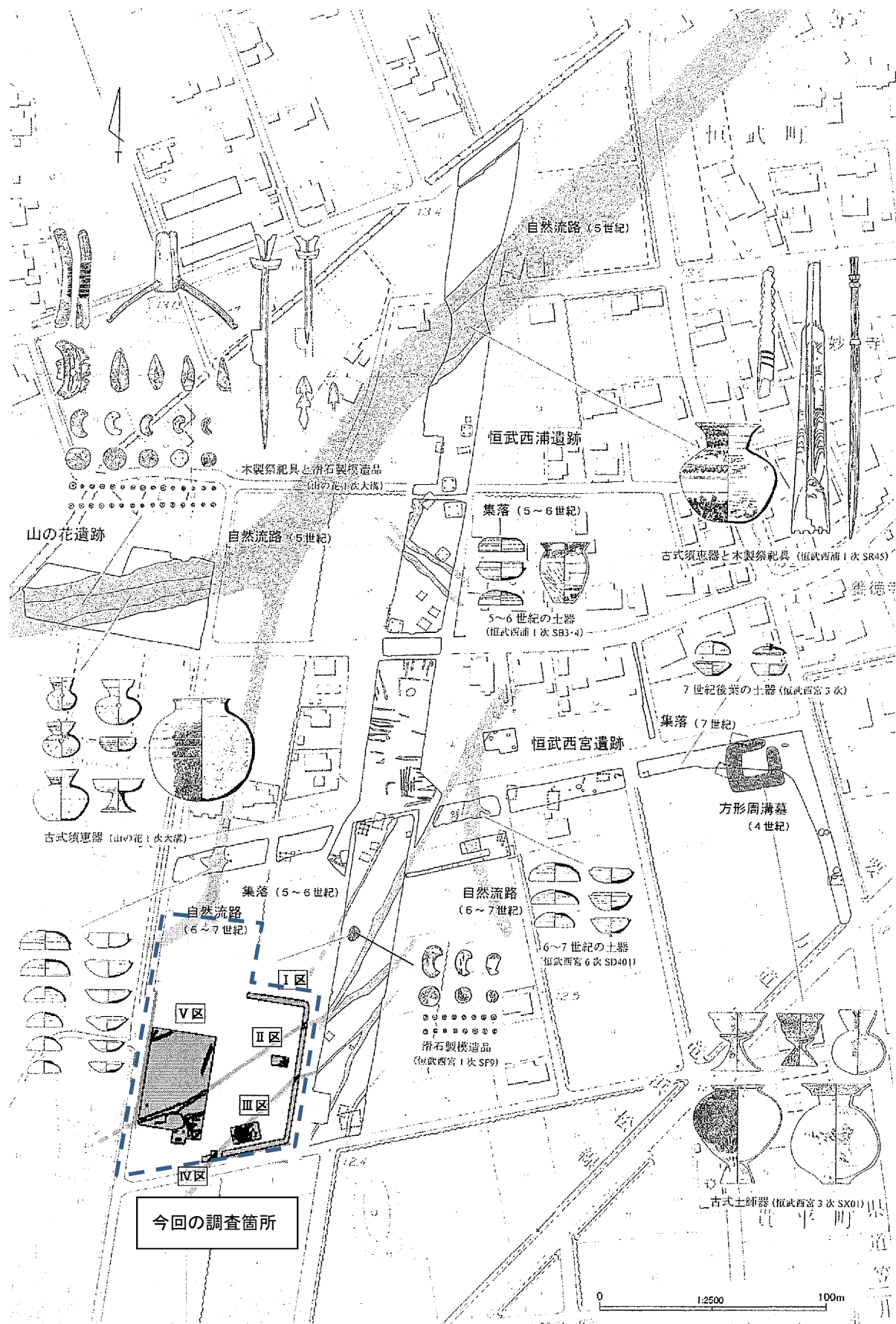
## ●「恒武西宮遺跡」について

恒武西宮遺跡は、浜松市東区恒武町から貴平町にかけて分布する集落遺跡です。笠井地区には恒武西宮遺跡を含め遺跡が多く分布しており、恒武遺跡群と呼ばれています。これまでの調査では、古墳時代前期（4世紀頃）から戦国時代（16世紀頃）までの遺跡が発見されています。恒武西宮遺跡では、これまでの調査で複数の掘立柱建物跡や祭祀の痕跡などが検出されています。また、山ノ花遺跡や恒武西浦遺跡の発掘調査では、恒武大溝と呼ばれる川の跡から、古墳時代中期（5世紀）の祭祀に関連した道具が大量に出土しています。これらの調査結果から、古墳時代の笠井地区は、地方の有力な首長層とのかかわりが深い地域であったとみられています。

今回の発掘調査箇所では、古墳時代後期から終末期（6世紀～7世紀）を中心とした時期の遺跡が確認できました。調査区全体で複数の溝（小川）が検出され、溝の中からは7世紀頃の土器や祭祀の道具が出土しました。また、掘立柱建物の跡が複数検出できました。恒武西宮遺跡とその周辺における発掘調査で確認された古墳時代の居住域や祭祀の場が、今回の調査箇所にも広がっていると評価できるでしょう。



恒武西宮遺跡の位置と周辺の遺跡



調査区の位置と古墳時代の様相

## ●建物跡

掘立柱建物と呼ばれる建物の柱の跡です。6～7世紀の建物跡が、Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅴ区で見つかっています。



建物跡の検出状況  
(左：Ⅴ区、右：Ⅱ区)

## ●溝跡

全ての調査区で溝跡が見つかっています。過去の発掘調査で見つかった、古墳時代の自然流路の続きも確認できました。溝の中からは、6世紀～7世紀の土器が出土しました。



Ⅲ区調査状況



溝（Ⅴ区）検出状況

一番大きな溝は、6～7世紀を中心とした時期のもので、幅約1.2m、深さ約1mです。溝の中からは、土器に加え勾玉形の滑石製模造品や銅製の耳環（耳飾り）が一点ずつ出土しました。周辺でこれらを使った祭祀が行われた可能性があります。



耳環出土状況

### 【注意事項】

- ★説明会当日の安全管理につきましては、十分ご注意ください。危険な箇所への立ち入りはご遠慮いただきますよう、お願いいたします。なお、見学中の不慮の事故により損害が発生した場合においては責任を負いかねますことを予め承知おきください。
- ★説明会では、他のお客様が特定できるような写真撮影はご遠慮ください。また、人物が特定できる画像等の公開もご遠慮願います。なお、説明会は公開を前提としておりますので、説明会当日、報道取材がある可能性につきましてはご理解をお願いいたします。
- ★安全管理上、説明会以外の日に無断で現場に立ち入ることはご遠慮ください。